


# きたみらい農業協同組合における カーボン・クレジットの活用について



 JAきたみらい

北の大地で、笑顔の未来をみつめる。







# こだわり栽培品 生産振興に関する取り組み

## 基本事項

- 安全・安心な作物の安定供給
- 農業における環境への負荷を軽減し、安心して暮らせる「環境」を子供たちの未来へ継承する。
- 活動を通じ、持続可能な農業・地域の確立を目指す。

## 活動目標

農業生産工程機械作業のCO<sub>2</sub>排出量  
「ゼロ」

- 流通関係者の意識改革（市場・量販）
- 次世代消費者の期待に応える
- 食を通じた情報発信（SDGsや温暖化対策）

## 具体的取組

### 1 ≫ こだわり栽培による排出量の削減

- ・循環型農業の実践、地域資源の循環
- ・堆肥や有機質資材による、土づくり
- ・肥料、農薬使用量抑制による機械作業の短縮

### 2 ≫ カーボン・オフセット（CO<sub>2</sub>吸収支援）

- ・キキタの森プロジェクトと通じた、オフセット・クレジットの購入による、森林保全活動等の支援
- ・地元発行クレジットの購入

### 3 ≫ バイオ炭（CO<sub>2</sub>削減活動）

- ・J-クレジット制度に基づくバイオ炭施用によるCO<sub>2</sub>土壌貯留の実施
- ・玉葱茎葉残渣等のバイオ炭化による、地域資源の循環並びに炭素土壌貯留に向けた試験の実施

# 商品開発の背景 1

世界共通の課題

SDGsの達成  
カーボンニュートラルの実現

 日本

みどりの食料システム戦略

農林業及び食品産業の持続的発展  
国民に対する食料の安定供給の確保  
環境負荷の少ない健全な経済発展を図る

『環境保全訴求型商品』の確立を目指す

# 商品開発の背景 2

## 消費者意識

世界動向



購買動機になっていない

食の安定供給



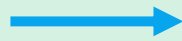
あるのが当たり前

栽培基準



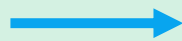
違いを理解している人は少ない

SDGsの浸透



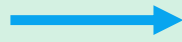
行動動機の変化

消費者層の変化



Z世代が消費者となる

エシカル消費の拡大



環境保全活動が重要

# 商品開発の背景 3

## 消費者意識

世界動向

購買動機になっていない

環境保全型商品の普及は、一定の年齢を超えた世代には  
伝わりにくい

栽培基準

違いを理解している人は少ない

SDGsの浸透

行動動機の変化

これから消費者となる世代には有効な取り組み

エシカル消費の拡大

環境休生活動が重要

# 環境保全型商品（カーボン・オフセット）

## カーボン・オフセット商品

商品	堆肥目標	化成肥料	農薬	有機質
ECOみらいたまねぎ	2 t 以上 4 t 以下	50%削減	32%削減	1kg以上
ECOみらいじゃがいも	1 t 以上 2 t 以下	45%削減	33%削減	〃
特別栽培たまねぎ	3 t	60%削減	50%削減	上限無し

### 《組織活動・販売状況》

- ① 量販店での定番アイテム化（ECOみらい）
- ② 差別化商品としての販売（ECOみらい、特裁）
- ③ 学校給食への供給（ECOみらい、特裁）
- ④ 消費地と連携した食育授業（カーボン・オフセット給食）

商品（産地） + 輸送（消費地） をオフセット。畑から消費までを一貫しオフセット



# 環境保全型商品 (バイオ炭)

## バイオ炭施用商品

商品	堆肥目標	化成肥料	農薬	有機質
環「めぐる」	2 t 以上	60%削減	60%削減 50%以上削減	4kgまで
真白「ましろ」	2 t 以上	50%削減	60%削減 50%以上削減	約2kg

### 《組織活動・販売状況》

- ① ホクレンと連携した商品開発並びに販売
- ② 差別化商品としての販売
- ③ ホクレン、クルベジ協会を通じたクレジットの発行と販売

### 《今後の展開》

#### JA取扱商品の差別化

ECOみらい : カーボン・オフセット → たべることでCO<sub>2</sub>吸収に貢献

特別栽培 : バイオ炭 → たべることでCO<sub>2</sub>削減に貢献





# こだわり特裁の取組規模

品目	栽培基準	商品名	CO2 ゼロエミッション化	農薬 50% 削減	肥料 30% 低減	面積 (ha)
玉ねぎ	特別栽培	特別栽培玉ねぎ	カーボン・オフセット	達成	達成	78
		環～めぐる～	バイオ炭	達成	達成	27
		顔が見える野菜	J-GAP	達成	達成	47
		フードプラン		達成	達成	25
	JA独自基準	ECOたまねぎ	カーボン・オフセット	32%	達成	140
馬鈴しょ	特別栽培	特別栽培じゃがいも		達成	達成	65
		フードプラン		達成	達成	10
	JA独自	ECOじゃがいも	カーボン・オフセット	33%	達成	78

玉ねぎ	317/4,500	7.0%
馬鈴しょ	153/1,290	11.8%

# 課題

## 《生産》

- ・ 特別栽培等に取り組むには高い技術力と、長年にわたる土づくりが重要であるため、急激な面積増加は望めない。
- ・ カーボン・オフセットの価値を価格に転嫁されずコストが先行してしまう。
- ・ バイオ炭の確保が困難。作業コストが負担。
- ・ オフセットの作物別の基準が無く、実態が不明確

## 《販売》

- ・ 特裁等はニーズが小さいため差別化が可能である。
- ・ J-クレジット制度が分かりにくい（カーボン・オフセット）

## 《消費者》

- ・ 大半の消費者は価格優先が第一。
- ・ カーボンクレジットの情報が少なく、商品価値が伝わらない

一般的な農作物の消費

特裁等の  
ニーズ

# 拡大に向けて

## 《J-クレジット制度》

- ・ CO<sub>2</sub> 排出量試算のガイドライン（分野毎に簡潔に）  
環境保全型農畜産物CO<sub>2</sub> 排出量算出に関わるガイドライン
- ・ クレジット購入の簡素化  
都道府県管理の直接取引の拡大

## 《情報の発信》

- ・ 教育を通じた「環境保全」等に関する学習の強化
- ・ 温暖化リスクに関する情報発信の強化
- ・ 消費者に簡潔に伝える情報発信ツールの統一

## 《制度による取り組みへの弊害》

- ・ 国際基準に準ずること、第三者認定を必須とするなどの制約が強まると  
産地での取り組み拡大は困難となる。

一般的な農作物の消費  
(環境保全価値)

特裁等の  
ニーズ

## クレジットの創出



## クレジットの利用



ご清聴ありがとうございました